

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 6 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21390574

研究課題名（和文）看護学士号をもつ新人看護師に求められる臨床実践能力開発のための学習モデルの研究

研究課題名（英文）Study on learning models for developing clinical competencies required for new baccalaureate nurses

研究代表者

松谷 美和子（MATSUTANI MIWAKO）

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60103587

研究成果の概要（和文）：

看護実践能力は、〈人々・状況を理解する力〉、〈人々中心のケアを行う力〉、〈看護の質を改善する力〉の3つの主要構造からなる。新人看護師には、「人間関係を築いていく力」、「セルフマネジメント力」、「自己研鑽力」、「基盤となる知識力」、「看護技術力」、「看護へのコミットメント」、「看護業務遂行能力」が求められる。看護系大学には、これらの実践力の開発を通して自己研鑽力を育み、結果として質の良い看護実践を行える人材を輩出することが求められる。

研究成果の概要（英文）：

Nursing Competency consists of 'the ability to understand people', 'practice people-centered nursing' and 'ensure quality nursing'. Thus, nursing competencies required for new nurses are: interpersonal communication, self-management, personal and professional development, basic clinical knowledge for self-learning, nursing assessment and care delivery, professional and ethical nursing practice, and implementation of nursing workload. Nursing colleges or universities should educate nursing students' self-regulated learning ability along with fostering these competencies and send graduates into the general community prepared to implement quality nursing practice.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2010年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2012年度	3,200,000	960,000	4,160,000
総計	10,600,000	3,180,000	13,780,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護教育学・看護実践能力・看護学士・新人看護師・学習モデル

## 1. 研究開始当初の背景

科学及び医療技術の進歩、高齢社会の進展などにより、看護は質量共にますます人々から期待される機能となっている。一方、医療技術の高度化と人権意識のたかまりなどにより、看護基礎教育課程における実践教育には限界が生じ、卒業時の看護実践能力は、臨

地で期待されるレベルまでに到達していないのが現状である。看護系大学の新設が相次ぎ、卒業見込み者は看護師国家試験受験資格者全体の20%(2007)を超え、卒業生の78%(2007)は看護師として病院に就職している。しかし、新卒看護師の実践現場への適応は困難を伴うものとなっており、看護学士に求め

られる臨床看護実践能力の明確化と実践能力開発モデルの作成は重要な課題である。

## 2. 研究の目的

どのような臨床看護実践能力をどのように育成するプログラムが必要かを探究するために、次の目標を達成する：

- (1) 看護実践能力の概念及び構造の明確化
- (2) 新人看護師に必要な臨床実践能力の具体化・明確化
- (3) 看護系大学における臨床看護実践能力の育成状況の明確化
- (4) 病院における新人看護師の臨床看護実践能力の現状と期待および重要性の明確化
- (5) 臨床看護実践能力開発のモデルの検討

## 3. 研究の方法

- (1) 看護実践能力の概念及び構造を明確化するために、国内外の系統的な文献検討を実施した。
- (2) 新人看護師に必要な臨床実践能力の具体化・明確化のために：①新人看護師が必要と認識した臨床実践能力に関する面接調査、②2年目の看護師が必要と認識した臨床実践能力に関する面接調査、③新人看護師を育成した経験のある看護師が新人看護師に求める臨床実践能力に関する面接調査を実施した。
- (3) 看護系大学における臨床看護実践能力の育成状況を明確にするために、完成年次を迎えた看護系大学の看護系教員を対象とした質問紙調査を実施した。
- (4) 病院における新人看護師の臨床看護実践能力の現状と期待および重要性の明確化のために、新人研修担当者を対象とした質問紙調査を実施した。
- (5) 臨床看護実践能力開発のモデルの明確化のために、全ての登録看護師教育を大学教育課程とした英国に学習モデルを求め、大学教員へのインタビュー調査を実施した。

## 4. 研究成果

- (1) 看護実践能力の概念及び構造について、系統的な文献検討の結果、概念を整理し、構造図を提示し、論文として公表した。構造図は、日本看護協会出版会が編集するテキストに転載され、リポジトリからの論文のダウンロード件数は毎月3桁である。
- (2) 新人看護師に必要な臨床実践能力の具体化・明確化について、①新人看護師(図1)、②臨床2年目の看護師、③新人看護師を育成した経験のある看護師を対象とした面接調査結果を抽出し、提示した。成果は学会において口頭発表したほか、論文としても発表を行った(1本掲載済み、1本印刷中、1本査読中)。臨床看護実践能力の基本は共通するが、特にリスクマネジメントについて、育成経験

のある看護師は、新人看護師の認識よりもより具体的で明瞭な能力を求めていた。これは、基礎教育の中に取り入れるべき内容である。

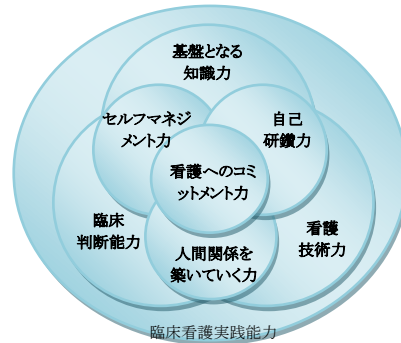


図1. 新卒看護師が必要とする臨床看護実践能力

- (3) 看護系大学における臨床看護実践能力の育成に関する看護系教員への質問紙調査から、臨地実習経験が十分とはいえない状況の存在することが明らかになった。また、卒業までにアセスメント力、対人関係力、看護倫理、リスクマネジメント力、自己研鑽力を強化したいと回答した者が多かった。

調査結果を学会で口演により発表し、報告書にまとめた。

- (4) 病院における新人看護師の臨床看護実践能力の現状、期待及び重要性に関する調査から、新人研修担当者の認識が明らかになった(回収率 57.3%, n=531)。新人看護師の能力について60%以上の研修担当者が、重要性が高いとした項目は、「適切な言葉遣いができる」、「適切な態度・マナーで振舞える」、「先輩看護師に相談することができる」、「先輩看護師に必要な助けを求め、得ることができる」であった。〈人間関係を築いていく力〉〈セルフマネジメント力〉〈自己研鑽力〉〈基盤となる知識力〉〈看護技術力〉〈看護へのコミットメント〉〈看護業務遂行能力〉のすべてにおいて期待値平均が実際値平均より有意に高かった。

これらの調査結果は報告書にまとめ看護系大学に配布した。

- (5) 臨床看護実践能力開発のモデルの明確化のために、米国および英国の学習モデルを調査した。米国では、大学ヘルスシステムコンソーシアム(UHC: the University Health System Consortium)が、実践力向上による定着率の向上をめざした取組みを行っている。これは日本においても普及すべきプログラムであると考えられる。また、英国では看護師資格が統一され、看護職の基礎教育はすべて大学で行われるようになった。理論と実践の学習時間数は50%ずつであり、入学当初から専門領域を選んで入学する。このため、共通基礎科目の学習後は選択領域での実習を行う。これにより、その領域の技術の熟達度はある程度確

保できている。英国におけるインタビュー調査については報告書にまとめた。

日本の看護系大学における教育はジェネラリスト教育である。看護職者の基盤について広く学習し、実践への移行後に新人研修を経て一人前となる。その後、自分の専門領域を選んで大学院に進学するしくみとなっている。日本の専門領域の実践者の教育は、修士課程までである。米国は実践者のための博士課程を既に184課程(2011)擁している。日本は看護系大学新設の時代から、看護実践能力を開発していく能力の高い人材の輩出に力点を移していくことになる。充実した実習による実質的な実践能力の修得のための学習プログラムの開発が課題として明らかになった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

1. 高屋尚子, 松谷美和子, 寺田麻子, 西野理英, 飯田正子, 佐藤エキ子, 佐居由美, 平林優子, 井部俊子, 三浦有理子. 看護系大学新卒看護師に求められる臨床看護実践能力: 新卒看護師育成経験のある看護師への面接調査. 聖路加看護学会誌, 査読有, 17(1), 2013. 印刷中.
2. 松谷美和子, 佐居由美, 奥裕美, 堀成美, 高屋尚子, 三浦友理子. 看護系大学新卒看護師が必要と認識している臨床看護実践能力: 1年目看護師への面接調査の分析. 聖路加看護学会誌, 査読有, 16(1), 2012. 9-19.
3. 松谷美和子, 三浦友理子, 平林優子, 佐居由美, 卯野木健, 大隈香, 奥裕美, 堀成美, 井部俊子, 高屋尚子, 西野理英, 寺田麻子, 飯田正子, 佐藤エキ子. 看護実践能力: 概念、構造、および評価. 聖路加看護学会誌. 査読有, 14(2), 2010, 18-28.

[学会発表] (計4件)

1. 松谷美和子, 佐居由美, 平林優子, 井部俊子, 宇都宮明美, 倉岡有美子, 三浦有理子, 林智子, 高屋尚子, 中村めぐみ, 西野理英, 岩崎寿賀子, 佐藤エキ子. 看護系大学新卒看護師に求められる臨床看護実践能力: 新人看護師研修担当者への質問紙調査結果. 聖路加看護学会, 2013.09.28. 東京.
2. 松谷美和子, 佐居由美, 平林優子, 井部俊子, 高屋尚子, 佐藤エキ子, 卯野木健. 学士号をもつ新卒看護師に求められる看護実践能力の育成に関する質問調査. 第31回日本看護科学学会学術集会, 2011.12.03. 高知.

3. 奥裕美, 松谷美和子, 佐居由美, 堀成美. 看護系大学卒業の新卒看護師に求められる臨床看護実践能力: 1年目看護師への面接調査内容の分析. 聖路加看護学会, 2010.09.25. 東京.
4. 佐居由美, 松谷美和子, 三浦友理子. 看護系大学卒業の新卒看護師に求められる臨床看護実践能力: 2年目看護師への面接調査内容の分析. 聖路加看護学会, 2010.09.25. 東京.
5. 西野理英, 高屋尚子, 寺田麻子, 松谷美和子. 看護系大学卒業の新卒看護師に求められる臨床看護実践能力: 先輩看護師への面接調査内容の分析. 聖路加看護学会, 2010.09.25. 東京.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

- <http://arch.slcn.ac.jp/dspace/handle/10285/6257>
- <http://arch.slcn.ac.jp/dspace/handle/10285/7717>
- 報告書 2013.03.06 全国看護系大学および主要な病院看護部へ送付

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

松谷 美和子 (MATSUTANI MIWAKO)  
聖路加看護大学・看護学部・教授  
研究者番号: 60103587

(2) 研究分担者

平林 優子 (HIRABAYASHI YUKO)  
聖路加看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：50228813

佐居 由美 (SAKYO YUMI)  
聖路加看護大学・看護学部・准教授  
研究者番号：10297070

(3)連携研究者

井部 俊子 (IBE TOSHIKO)  
聖路加看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：50365839

堀 成美 (HORI NARUMI)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号：70539121

西野 理英 (NSHINO RIE)  
聖路加看護大学・看護学部・准教授  
研究者番号：90590216

寺田 麻子 (TERADA ASAKO)  
聖路加看護大学・看護学部・准教授  
研究者番号：10590218

卯野木 健 (UNOKI TAKESHI)  
聖路加看護大学・看護学部・准教授  
研究者番号：40465232  
(H21-H22)

大隅 香 (OOSUMI KAORU)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号：70407625  
(H21)

奥 裕美 (OKU HIROMI)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号：80439512  
(H21)

倉岡 有美子 (KURAOKA YUMIKO)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号：30584429  
(H22-H24)

宇都宮 明美 (UTSUNOMIYA AKEMI)  
聖路加看護大学・看護学部・准教授  
研究者番号：80611251  
(H23-H24)

高屋 尚子 (TAKAYA TAKAKO)  
聖路加看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：70523471  
(H21-H23)

中村 めぐみ (NAKAMURA MEGUMI)  
聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50407623  
(H24)

林 智子 (HAYASHI TOMOKO)  
三重大学・看護学部・教授  
研究者番号：70324514  
(H24)

(4)研究協力者

飯田 正子 (IIDA MASAKO)  
聖路加国際病院  
(H21-H22)

佐藤 エキ子 (SATO EKIKO)  
聖路加国際病院  
(H23-H24)

岩崎 寿賀子 (IWASAKI SUGAKO)  
聖路加国際病院  
(H24)